

2025. 1. 15 なわとび10カード

1月に入って、縄跳びで遊ぶ年長児の様子が数人見られたので、「なわとび10（じゅう）カード」を環境として用意してみました。

なわとび10カードは、○が10個で一塊になっていて、10回飛べたらご褒美シールを貼ることができます。全部で7列あるので、全部跳べば70回は跳んだことになります。

つづけて10回跳んでももちろんいいし、2～3回でひっかかっても続きから跳んでもいいです。

もちろんゆっくり跳びでも、はや跳びでもどちらでもいいし、どの子にとっても縄跳びに触るきっかけになってほしいという願いがあります。

どれくらい興味をもってくれるかな？と朝出してみると、予想以上に挑戦し始める子供たち。

一気に100回近く跳べる子は、一回でカードが全て埋まっていきます。

10回続けて跳べる子も、何回も何回も跳びながらカードをシールで埋めていきます。

「先生、5枚目にいったよ！目標は10枚行くんだ！」と宣言する子も（ほんとに10枚目まで行っていました）。

1回ずつ跳ぶことができる子も、着実にシールが増えていくことが嬉しくて。カードが全部埋まると、「先生！全部詰まったよ！2枚目いっていい？」ととても嬉しそう。汗をかきながら1時間以上ひたすら跳び続けています。その隣では、二人隣に並び、一つの縄でふたり跳びを挑戦している女の子たち。二人で息を合わせながら、手をつないで跳んだほうがいいのか、手を放して跳んだほうがいいのか相談していました。跳ぶことができると、二人同じシールでなわとび10カードにシールを貼っていました。

みんなの時間では、なわとび10カードを紹介する子供たち。

二人跳びも横に並ぶ方法だけでなく、向かい合って跳ぶ方法もあることを紹介すると、昼から嬉しそうに二人跳びに挑戦する子もいました。

その子なりのスピードで、その子なりの遊び方で、縄跳びへの興味・関心を高めていけるといいなと思っています。またそれが縄跳び遊びを「好き」になるきっかけにもなっていきます。そして、きっとこれからもっと難しい技を跳びたい子も出てくるでしょう。どのような技があるのか、新たな技をつくり出すかもしれません。それこそ子供たちと共に縄遊びの可能性を探りながら、小学校の縄跳びの様子なども見て参考にし、子供たちと一緒に縄跳び遊びを創り出しながら楽しんでいきたいです。

